

かけ  
鶏



庭つ鳥 鶏の垂り尾の乱れ尾の  
にわ どり かけ た お みだ お

長き心も思ほえぬかも  
なが こころ おも

卷七―一四一三 作者未詳

歌意 家に飼う鶏の垂れた尾の乱れた尾のように末長き気持も、今は考えられないことだ。

突然愛する人を失い、命の短さを詠んだのでしうか。ニワトリのことを鳴き声からきた「かけ」と呼んでいました。

「庭つ鳥」は「かけ」にかかる枕詞。庭で飼っていたことからニワトリといわれるようになりました。

奈良時代の鶏は交配の進んだ現代の鶏とはかなり違っていただろうと思われます。

この写真は鶏の原種に近い赤色野鶏です。尾が長く美しい鳥です。古代は肉や卵を取るより時刻を知らせる神聖な鳥だったようです。